

第4章 戦後処理と記憶・継承

米軍につかまり、石川収容所などの収容所に押し込められた住民の生活も過酷なものでした。やがて帰村が許され、村復興に向けて先遣隊が派遣されました。復興が進む中で、遺骨収集、村遺族会結成と活動、そして慰霊の塔の建設と慰霊祭が行われるようになりました。また、沖縄戦の「負の遺産」である不発弾の事故や、沖縄戦最中からすでに建設が行われていた米軍基地の実態も明らかにしています。

第2部 証言編／第3部 資料編

証言編では恩納村の15の行政区すべてから聞き取りを行った証言のうち、65件を収録しました。村民の村内外や海外での体験、護郷隊の体験、防衛隊の体験など、戦争の「記憶」が生々しく綴られています。

資料編では日本軍の資料や恩納村での戦闘を記録した米軍の資料を紹介しています。また、恩納村出身で沖縄戦当時謝花国民学校教頭の仲嶺盛文さんがヤンバルでの避難や収容所生活を記した「日記」も収録しました。

また、平和学習に活用できるよう、村内の戦争遺跡などを「航空写真から見る恩納村の戦争」として3枚の付録にしました。



安富祖のキャンプ・ハンセンゲート前で元護郷隊員の瑞慶山良光さんより体験を聞く

恩納村史はどこで読める？

これまで刊行された『恩納村誌』『恩納村史』はいずれも文化情報センターや村内各学校、公民館に寄贈しております。

また、恩納村役場総務課(2階)、恩納村博物館で購入できます。多くの方々に読んでいただきたいと思っております。



- 『恩納村誌』(1980年) 仲松弥秀著 (2,000円)
- 『恩納村誌 第一巻 自然編』(2014年) (3,000円)
- 『恩納村史 第二巻 考古編』(2020年) (3,000円)
- 『恩納村史 第三巻 戦争編』(2022年) (3,000円)

お問い合わせ: 恩納村史編さん係(恩納村博物館内) ☎982-5112

平和学習の「教科書」として

村民のみなさん、ぜひ、本書をお読みになって、恩納村が戦場であったことを知ってください。同時に「戦争は絶対やってはいけない」「戦争は弱い立場の人が犠牲になる」「命どう宝」という沖縄戦の教訓を今一度考えていただきたい。

本書が次世代の平和学習の「教科書」になることを願っております。